



「日本のよさ」を再確認しよう～校長先生 2学期終業式 講話より～

2学期も今日で終わりです。令和3年もまもなく終わろうとしています。新型コロナウイルスの感染が拡大して2年が経過しようとしています。現在は、オミクロン株という新たな変異株がありますので、まだまだ油断はできませんが、日本国内の感染状況は落ち着いた状態です。

しかし、海外に目を向けると、日本とは真逆で感染が拡大している国もあります。ワクチンの接種率が進み、いったんは感染者数が少なくなったのにもかかわらず、再度、感染拡大が止まらない国も少なくありません。これらの国々と日本との違いは何だろうという疑問がわきました。日本がこのような落ち着いた感染状況となっている理由について詳しいことは分かっていませんが、それを考えることで、これからの生活を考えていく大事なヒントが隠されているように思います。校長先生なりに考えてみました。

【理由その1】ワクチン接種率の高さが関係している？

多くの専門家が、ワクチン接種率の高さを、感染拡大防止の理由の一つに上げています。日本よりも早くワクチン接種が始まった国よりも、今では日本の接種率の方が高くなっています。ワクチンを接種するかしないかは、個人の判断です。日本の場合は任意接種です。しかし、日本よりもワクチン接種率が高い国でも、感染拡大が止まらない国がいくつもあります。

【理由その2】感染防止のための生活マナー等を守る人が多いという国民性が関係している？

コロナ禍を通して、「手洗い」「うがい」「マスクの着用」「会食中の会話を控える」など、多くの感染対策が日常の行動様式の一つとして定着してきました。特に手洗いに関しては、校長先生も必ず「せっけん」を使って念入りに行うようになりました。これまでは、インフルエンザや風邪などが流行する時期だけしかそうしないときもありましたが、今では一年中、念りに手洗い・うがいを行っています。マスクの着用に関しても、多くの人がマスクを着用して生活しています。不要不急の外出を控え、感染リスクを極力減らす努力を継続されている方も多くいます。強要されなくても、マナーとして気を付けて行動しようとする日本人の国民性が関係しているのではないかと思います。「周りの人と同じを求める」と否定的な見方をされる場合もありますが、「協力的である」という日本人の素晴らしさを感じます。

【理由その3】ある外国との違い

校長先生の姪は、海外に住んでいました。しかし、つい最近(11月)、日本に戻ってきました。それは、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策が理由です。日本は、「ロックダウン」や「罰金」など、強制的な感染対策はとりませんでした。罰則がないにも関わらず、日本はこれほど感染者数を抑えることができています。姪が住んでいた外国では、大変厳しい感染対策がありました。その国では、制限区域から出る行動をすると罰金が10～30万円も課せられます。弥富市ほどの大きさの街でしたが、その制限区域から出てしまうと罰金が科せられてしまいます。警察の取り締まりがとても厳しく、普通の生活ができなかったそうです。「2人以上で散歩してはダメ」だとか、「スーパーへ行く場合は一人で行く」だとか、民主的な国のはずなのに、人権を奪われているような感覚になったそうです。日本にはこんな取り締まりや規則はありません。だから、日本に戻ってきたそうです。これは、どちらの国が優れているとかどちらの国がよいのかといった問題ではありません。あくまで比較の問題です。

理由を考えていく中で、日本の国民性のよさ、日本という国のよさが、新型コロナウイルス感染拡大防止に、大きくはたらいっている気がしました。こうしたよさを、さらに発展させる人になりたいですね。皆さんのこれからのますますの成長を期待しています。